

## Ⅱ 教育課程

## 第5分科会 豊かな人間性

## ■ 研究課題 ■

## 豊かな人間性を育む教育課程と校長の在り方

## 分科会の趣旨

子どもたちが、自らを律しつつ、自己を確立し、他人を思いやる心や感動する心をもつ豊かな人間性を備えた人として育ち、自分らしく主体的に生きていくことは、社会全体の願いである。このような豊かな人間性の育成を図る基盤として道徳教育や人権教育がある。

道徳教育の視点からは、自制心や規範意識の希薄化等の心の状況に関わる課題や、現実から逃避し、今の自分さえ良ければよいという利己的な考えに陥りがちな子どもの現状が課題として指摘されている。その背景には、子どもを取り巻く環境の変化、特に家庭や地域社会における教育力の低下等の状況や、いじめ・暴力行為・不登校等の子どもたちが安心して学べる環境に関わる問題がある。これからの道徳教育は、こうした課題やその背景を視野に入れ、子どもたちが夢や希望をもって未来を拓き、人間としてより良く生きようとする力が育成されるよう指導の一層の充実を図っていかねばならない。

また、人権教育の視点からは、子どもたちが人権尊重の理念についての正しい理解や実践する態度が十分身に付いていないことが指摘されている。加えて、教職員にも人権尊重の理念についての理解が不十分であることや指導方法が十分身に付いていない等の課題がある。こうした課題の解決のためには、子どもたちに人間と生命の価値を自覚し尊重することや、人と調和して共に生きること、人の痛みや思いに共感することなどを育む心に響く人権教育を教育活動全般の中で進めていくことが急務である。

本分科会では、校長のリーダーシップのもと、道徳教育や人権教育など心の教育にかかる教育実践を推進するとともに、家庭や地域等と連携・協働した取組を実現し、人間性豊かな日本人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善について具体的方策を明らかにする。

## リーダーシップの視点

## (1) 新たな社会を生き抜く人権感覚の育成

未来を担う子どもたちにとって、人が生きていく上で必要な権利を知り、あらゆる差別を許さず、文化・価値観・個性の違いこそが豊かさにつながるということについて認識することは、人権感覚を育むためには重要なことである。そのためには、学級をはじめ学校生活全体の中で、子どもたち自身が互いに認め合い、豊かな人間関係を構築していくことが大切である。また、子どもたちの人権感覚は、学校だけでなく家庭や地域社会を通じて育まれることから、その連携と協働が不可欠である。

このような視点から、学校・地域の実態に即した、他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、正義感や公正さを重んじる心等、社会を生き抜くために必要な人権感覚を育むための校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

## (2) 豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善

子どもたちに豊かな心を育成することについては、道徳教育として教育活動全体を通して行われることとなっている。ところが、道徳の時間以外の各教科等における道徳教育の実施は、必ずしも十分とは言えない。こうした現状を改善していくためには、子どもたちが、教育活動全体を通して、様々な人間関係を深められるようにするとともに、自己の生き方について考えを深めなければならない。また、他者、社会、自然・環境との豊かな関わりの中で生きるという実感や達成感を味わい、社会参画への意欲や態度を身に付けることができるよう道徳教育の一層の充実を図る必要がある。

このような視点から、家庭や地域との連携を図り、地域の多様な人々や自然・環境等との交流の場を確保し、豊かな関わりの中で人間性や社会性を育み、子どもの内面に根差す豊かな心を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善のための校長の果たすべき役割と指導性を究明する。

## 心豊かに優しさをもって生きる児童を育成する 教育課程の編成と校長の在り方

函館地区 函館市立北昭和小学校 古川 邦彦

### I 趣 旨

これまでの予測をはるかに上回る急激な少子高齢化や高度情報化など、社会環境の劇的な変化は子どもたちの成長に様々な影響を及ぼしている。

とりわけ、地域社会や家庭における教育力の低下や人間関係の希薄化、直接体験の不足などに伴って派生する、生命尊重の心や自尊感情の欠如、基本的な生活習慣や規範意識の未確立、人間関係を形成する力の低下など、子どもたちの健やかな心の成長のために克服しなければならない課題が山積している。

学校は、子どもたちが自己を確立し、他者を思いやる心や感動する心をもつ豊かな人間性を備えた人として育ち、自分らしく主体的によりよく生きようとする力を育成していく場所である。そして、その育成の基盤となるのが、具体的方向性を示した教育課程である。

各学校では、豊かな人間性を育成するために創意ある教育課程を編成・実施し、また絶えざる評価により、児童の実態に即して教育課程の改善に日々取り組んでいる。

言うまでもなく、豊かな人間性を育むためには教育活動全体を通して道徳教育の充実を図り、様々な人間や社会・自然・環境と豊かに関わり合い、生きる充実感や達成感とともに社会参加の意欲なども身に付けることができるようにすることが肝要である。

また、グローバル化や「共生の時代」を迎えた今、子どもたちが文化や価値観・個性の違いを越えて、互いを認め合い、差別を許さず、共生していくことができる健全な人権感覚を身に付けることは、新たな社会を生き抜く資質として不可欠である。

本研究では、これまで2年間の研究の成果と課題を踏まえ、豊かな人間性を育む学校づくりをする上での校長の果たすべき役割やリーダーシップの在り方について整理し、より具体的な発揮の仕方について考察することで、研究課題の解明にアプローチしたいと考えた。

### II 研究の概要

#### 1. 研究主題

「心豊かに優しさをもって生きる児童を  
育成する教育課程の編成と校長の在り方」

函館市教育委員会は平成20年度に「函館市義務教育基本計画」を策定した。その基本理念は「心

豊かに共に未来のふるさとを拓く子をはぐくむ」である。

また、その実現を図るため、年度ごとに重点を定めた学校教育の指針「アプローチ」を示し、具体的方策を明確にしている。特に「心の教育」に関わっては「優しさをもって生きる子ども」を目指す子ども像の一つとして設定している。

私たち函館市小学校長会では、これまで、この指針をもとに、各学校がそれぞれに家庭・地域と連携しながら、特色ある体験的活動や地域性を生かした道徳教育の推進に努力してきた。

そこで本研究においても、他者を思いやり、共に生きようとする人間尊重の精神や自他の生命を大切にする「優しさをもって生きる子ども」の育成を目指して、各学校が創意ある教育活動を展開できるよう、研究主題を「心豊かに優しさをもって生きる児童を育成する教育課程の編成と校長の在り方」として、これまで2年間にわたって、実践研究を積み重ねてきたところである。

#### 2. 昨年度までの取組

##### (1) 第1年次（平成23年度）

函館市内の各小学校における心の教育及びその基盤となる道徳教育の推進状況や課題などについて実態調査を実施しその結果を分析・考察した。そして、教育効果を上げるために校長が実際にどのようにリーダーシップを発揮し、あるいは発揮すべきと考えているかについて次の3つの視点から3校の実践事例を紹介した。

##### 〈3つの視点〉

視点1：心の教育を進めるための特色ある教育活動

（教育活動の編成・実施）

\* A小学校「読書指導を中心とした心の教育の推進」

視点2：家庭・地域との連携

\* B小学校「小中連携を中心とした多様な体験活動による豊かな心の育成」

視点3：「道徳の時間の充実」

\* C小学校「いのちの教育」と関連した道徳の時間の工夫

##### 〈研究の課題〉

○教育課程の編成・実施については、一定の成果は見られたものの、その内容を検証し修正していく教育課程の評価・改善につい

ては十分ではなかった。

- 家庭・地域との更なる連携を図るとともに、教師の資質および授業力の向上にむけて道徳の授業の積極的な公開を進めていく必要がある。
- 心の教育を推進する上で、道徳教育の充実を図るには要となる「道徳の時間」の充実が必要である。

### (2) 第2年次（平成24年度）

前年度（平成23年度）の課題をもとに、3つの視点を設定し研究を深めることとした。キーワードは「改善」である。

〈3つの視点〉

- 視点1：教育活動(特色ある活動等)、教育内容などの教育課程に関わる改善
- 視点2：家庭・地域・異校種等との連携に関わる改善
- 視点3：道徳の時間の充実、校内体制に関わる改善

各視点に基づいて、改善すべく取り組んだ実践として9校の取組を研究発表の際に紹介した。

〈研究の課題〉

- 校長は教育課程の編成・実施・評価・改善の各段階でどのように適切なリーダーシップを発揮すべきかを明確にすること。
- 校長の経営方針の更なる明確化を目指すこと。
- 校長自らが実践できることを足下から探ること。
- 「人権教育」の視点を踏まえた実践を探ること。

### 3. 今年度の取組

本研究は継続研究（3年次）であることから昨年度の課題（前述4項目）に基づき、次のように研究の視点を2点に絞り校長のリーダーシップに焦点を当てて、整理することとした。

- 視点1：「人権感覚」の育成を目指した学校経営の在り方
- 視点2：教育課程の編成・実施・評価・改善の各段階での校長のリーダーシップの発揮の在り方

特に本年度は継続研究3年目となり、研究のまとめの年度となるので、校長のリーダーシップの発揮の仕方について場や段階に応じて明確化することを目指して実践の整理を行った。

視点1：「人権感覚」の育成を目指した学校経営のあり方

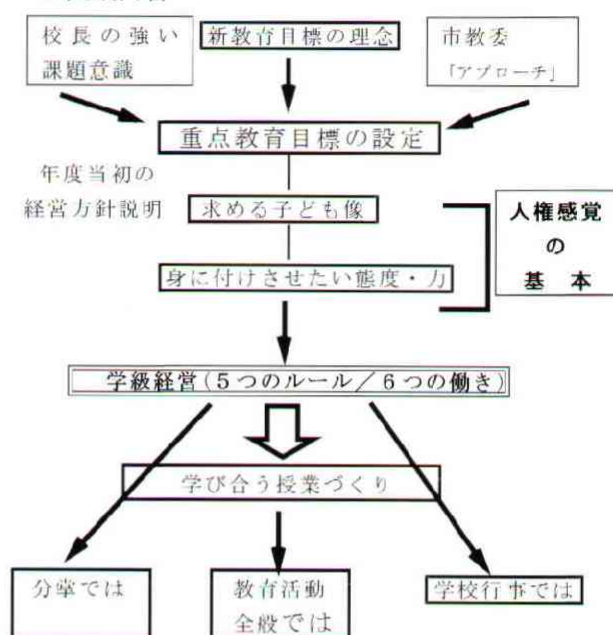
実践名 「人権感覚」の育成を目指した重点教育目標具現化の取組（北昭和小学校の実践）

○実践のねらい

新たに制定した教育目標の理念に基づき、児童や教師の実態に即して「人権感覚」の育成を

目指した重点教育目標をどのように設定し具現化したかを検証する。

○実践内容



○校長の関わり

- ア 平成23年度の学校評価を受けて、平成24年度に学校教育目標改定委員会を立ち上げ、1年間をかけて教師や保護者の願いをもとに教育目標を改定した。
- イ 「自立と共生」の教育目標の理念に基づき、現在の児童の実態や喫緊の学校課題を分析し、重点教育目標に反映させた。
- ウ 年度当初の経営方針説明の際、子ども像や学校に対する校長の理念を明確にし、また教育目標具現化のために身に付けさせたい態度や力を具体的に示した。
- エ 学級経営の充実が本校の子どもを変えようという考えのもと学級での5つのルールと、6つの働きを示し、各学級の経営案に反映させるようにした。
- オ 校務分掌の運営目標に重点教育目標が位置付くよう働き掛け、また教育活動への具体化を促した。
- カ 重点教育目標を生かした学校行事などの「めあて」を全校集会等で児童に直接具体的に話した。
- キ 様々な体験活動や児童会活動などを「人権感覚」を身に付ける視点で再評価し意識して位置付けた。

視点2：教育課程の編成・実施・評価・改善の各段階での校長のリーダーシップの発揮の在り方

実践名 「ともにの精神(こころ)」で目指す「夢と未来と仲間づくり」(亀田小学校の実践)

## ○実践のねらい

教育課程の編成・実施・評価・改善の各段階において、校長が適切にリーダーシップを発揮し、児童一人一人の「豊かな人間性の育成」につなげる。

## ○実践内容(教育課程の編成・実施・評価・改善)

## ① 「児童の育ち」から出発する教育活動の推進(R-PDCA)

ア 2学期末の「学校評価」において、「児童の育ち」についての外部アンケートを行い、「保護者・児童・地域・関係者」の評価結果を分析考察する。(R-リサーチ)

イ 自己評価結果と比較し、4者の評価結果の考察を教育課程の編成・改善に生かす。(P・D)

ウ 1学期末に、各分掌毎に重点項目に関して中間評価を行い、2学期の教育活動の展開に生かす。(C・A)

## ② 児童の自尊感情・自己肯定感を高め「夢と未来と仲間づくり」を目指す学校の創造

ア 「自尊感情・自己肯定感の伸長」を学級・学年・分掌経営の基盤に置くことを、年度始めの学校経営方針においてしっかりと確認し周知する。

イ 「ほめて伸ばす」ために、「注意や指示を受ける場面」を「成長をほめられる場面」に転換し、児童の育ちを見守り育む態勢づくりを呼びかける。

ウ 運動会・学芸発表会(桐陽発表会)後の「亀っ子きらり賞」の交換や児童総会の意見・感謝カードで、児童同士のコミュニケーションによる自尊感情・自己肯定感の伸長に努める。

エ 児童会活動における「ピア・サポート委員会」(H25から「学級・サポート委員会」)の継続的展開により、思いやりの心をもち望ましい人間関係づくりに取り組む。

オ 年2回の「アセス」による学級の実態把握とグループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニング(H24現職研修実施)などにより、人間関係づくり能力と道徳的実践力の育成に関わる指導力向上に取り組む。

## ③ 連携・協働による道徳性の伸長

ア 「亀田小学校スタンダード」を配布し、「ともに学ばん、ともに拓かん、ともに栄えん」(校訓)の学校づくりの方針を伝えるときともに、家庭・地域の役割を明確化し、連携協力の下に推進することを呼びかける。

イ 年間を通じて全学級における道徳を授業公開して保護者・地域への説明責任を果たすとともに、連携して道徳的実践力の伸長を図る契機とする。特に1学期末の授業参観テーマを「人間関係づくり」と設定して道徳などを公開する。

ウ 「チーム亀田で若年教員を育てる」こと

をテーマに掲げ、教職員間のコミュニケーションの活性化を促し、教職員自身の自尊感情・自己肯定感の伸長に努める。

## ○校長の関わり

ア 地域・家庭と学校、児童・保護者と教職員が同一目標を目指し、「ともに創る」協働体制づくりに努めた。

イ 「亀田小学校スタンダード」を配布し、家庭・地域に生きる学校教育を目指すよう連携の強化を図った。

ウ 教務主任と研究主任に指示し、「夢と未来と仲間づくり」を目指した教育課程の編成・実施・改善と、道徳教育の要となる授業の工夫改善・公開を進めた。

エ 道徳教育推進教師による道徳の年間指導計画の見直しと、「心のノート」の活用を明確に位置付けた。

## III ま と め

## 成 果

ア 人権感覚の育成を目指すために、校長として、児童の人間関係づくりをどう教育活動に位置付ければよいかの方向性を示すことができた。

イ 豊かな人間性を育成する教育課程の編成・実施・評価・改善の際、校長がどのようにリーダーシップを発揮すべきかが具体的に明らかになった。

## 課 題

ア 人権感覚の育成を目指した教育活動の全体計画づくりや地域・家庭との具体的な連携をどう模索していくかが今後の課題である。

イ 校長として、豊かな人間性の育成にかかわる学校課題を十分に把握し、日常的に点検・評価を行ってたゆまぬ改善を行っていくことが必要である。

本研究では3年間にわたり、函館市小学校長会として「豊かな人間性を育む教育課程の編成」に向けて、それぞれに視点を設定し、教育課程の改善・充実に関して校長が果たすべき役割とリーダーシップの在り方について明らかにしてきた。

また、本年度からは、子どもたちが、互いの価値観、個性の違いを越えて、認め合い、差別を許さず、共生していくことができる健全な人権感覚を身に付けることを目指して、校長がどのようにリーダーシップを発揮すべきかも実践を通して模索してきたところである。

今後は、これまで3年間にわたって継続研究してきた成果を基に、函館市小学校長会がもつ共同研究の機能を更に発揮し、直面する学校課題に対応しながら校長の果たすべき役割やリーダーシップの在り方について、組織的、継続的に研究を進めていきたい。